

【調査レポート】

「ダイキンオーキッドレディースゴルフトーナメント開催が沖縄にもたらす効果」

（ 要 旨 ）

- ・ ダイキンオーキッドレディースゴルフトーナメントは 1998 年の第 1 回大会から 2024 年の第 37 回まで継続開催されている県内唯一の定例プロトーナメントである。
- ・ 当大会は、沖縄と本土をつなぐ架け橋の役割と同時に、地元アマチュアゴルファーへの機会提供、ゴルフ文化の定着支援等を提供し続け、様々な分野で沖縄の発展に寄与してきた。
- ・ ギャラリー数が 15,318 人（延べ人数）となった第 37 回大会の経済効果は、24 億 3,700 万円となった。
- ・ 試合を観戦する『観る』スポーツであると同時に、観客として来沖した人々がラウンドを楽しむ『する』スポーツにも繋がっており、大会前後に行われる消費活動により生みだされる経済的効果は、更に拡大していると推測される。
- ・ 来場者の消費活動を促す充実した飲食・グッズ販売は、イベントを盛り上げるだけでなく、経済効果に大きく影響する。県内で開催される他のスポーツイベントでも、同様の仕組みづくりが望まれる。
- ・ 今後、大会の経済効果の拡大を目指すためには、①会場アンケート調査の実施、②関連イベント等の一部有償化の検討が可能である。
- ・ 当大会が沖縄にもたらす経済的・社会的効果は大きい。また観光の閑散期に開催され、需要の年間平準化に寄与し、沖縄を PR できる重要なイベントである。当大会がこれからも県民一同に愛されながら発展し、ともに沖縄県の未来をつくりあげていくことを希望する。

1. はじめに	1
2. ダイキンオーキッドの概要	
(1) 大会のあゆみ	1
(2) イベントスケジュール	3
(3) ギャラリー数の推移	4
(4) オーキッドバウンティによる社会貢献	5
3. ダイキンオーキッドの経済効果	
(1) トーナメント参加者・観客数	8
(2) ダイキンオーキッドの関連支出額（直接支出額）	8
(3) 沖縄県内におけるダイキンオーキッドの経済効果	9
(4) 産業別の経済効果	10
4. おわりに	11

1. はじめに

ダイキンオーキッドレディスゴルフトーナメント（以下、ダイキンオーキッド）は毎年3月1、2週目に琉球ゴルフ倶楽部（南城市）で開催される日本女子プロゴルフ開幕戦であり、沖縄県で開催される唯一の定例プロトーナメントである。1988年の第1回大会から、コロナ禍の1年を除き毎年開催されており、2024年に第37回を迎えた。

沖縄県では、年間を通してゴルフがプレーできる気候であることから、冬の閑散期の観光誘客策としてゴルフツーリズムが推し進められている。同大会は日本女子プロゴルフシーズンの開幕とともに沖縄の春の訪れを告げるイベントであり、鍛錬されたプロゴルファーのプレーを間近でみようと、県内外から数多くのゴルフファンが集まる。またトーナメント運営のため全国から関係者や報道関係者なども一定数沖縄を訪れることから、沖縄観光への貢献度も高い。

本調査では、2024年に本大会を主催するダイキン工業株式会社が創業100周年、琉球放送株式会社が創立70周年を迎えることを記念し、ダイキンオーキッドのこれまでの歴史を振り返りながら、両社が当大会を開催することにより沖縄県経済にもたらされる効果を定量的に分析する。分析においては、当大会開催による経済活動により新たに生み出される需要（直接支出額）を推計し、これをもとに産業連関分析を行うことで経済波及効果や雇用効果を試算した。

2. ダイキンオーキッドの概要

(1) 大会のあゆみ（図表1）¹²³

国内女子ゴルフシーズンの幕開けとして定着している当大会は、1980年代後半、日本本土と比較すると経済発展が立ち遅れていた沖縄をPRする策のひとつとして、琉球放送株式会社の小禄邦男社長（当時）が女子プロゴルフトーナメント誘致を発案したものである。現在は国内有数のビーチリゾートとして地位を確立し観光を基幹産業としている沖縄県だが、1988年の入域観光客数は約240万人と、コロナ禍前のピーク時の約1,016万人と比較すると、その4分の1以下であり当時の状況が読み取れよう。

小禄氏は、自身の持つ本土の経済界とのネットワークを活かし、日本興業銀行（現みずほ銀行）の中山素平特別顧問（当時）を介し、ダイキン工業株式会社の山田稔社長（同）のトーナメント大会主催への賛同を得た。そして同社でトーナメント実施を一から担当した井上礼之常務（同）の尽力により、1988年に記念すべき第1回の開催へと至った。また本大会の開始前には、本土や沖縄の財界・経済人と女子プロがチームを組んでプレーを競う「プロアマ大会」や、

¹ ダイキン工業株式会社 HP『沖縄と本土を結ぶ活動の歴史』<https://www.daikin.co.jp/orchid/ayumi/history>

² 産経新聞 2017. 3. 18『本土と沖縄、経済人の絆育んだ「ダイキン・オーキッド・レディスゴルフ」が30年の節目を迎える』
<https://www.sankei.com/article/20170308-JQFX0WYV6RINZHTFQJ2VCOTZ4E/>

³ 日本経済新聞 2023. 3. 16『ダイキン工業、ゴルフ大会に秘めた創業者の宿題』
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQ0GH069NR0W3A300C2000000/>

選手とゲストなど関係者が一堂に会す前夜祭を開催することで、沖縄を知ってもらう機会となり、また財界のトップと沖縄経済界の交流の場も創出された。

1990年には、ダイキンオーキッドをきっかけに、前出の中山氏の提唱で、本土と沖縄の経済界の協力・交流の場として「沖縄懇話会」が設けられ、牛尾治朗・元経済同友会代表幹事、稲嶺恵一・元沖縄県知事が初代代表幹事を務めた。定期的にラウンドテーブルが開催され、沖縄の振興開発について議論が進められるこの交流の場を通じ、2000年『九州・沖縄サミット』開催、2012年『沖縄科学技術大学院大学』開学、2013年『沖縄大交易会』開始など、沖縄全体を彩り、地域の活性化をもたらし実績がつくれ、現在も継続開催されている。

1995年には参加者からの浄財と両主催者の寄付金等を源とする基金「オーキッドバウンティ」を設立し、県内の芸術・文化・スポーツ・教育等の振興を目的としている活動に対し支援金の贈呈が開始された（詳細後述）。

1997年には第10回大会を機に、スローガンとして"Together with OKINAWA"を掲げ、沖縄と共に歩み続けるトーナメントを目指す取り組みとして、「ダイキンオーキッドレディスアマチュアゴルフ選手権大会」が開始された。現在も数多くの沖縄出身の女子プロゴルファーが活躍しているが、宮里藍氏や諸見里しのぶ氏などもアマチュア時代に、同大会をプロの登竜門として挑戦し、選手としての道を切り拓いた。また同時に「ボランティアスタッフによる大会運営」が開始され、現在も多くの県民がボランティアスタッフとして大会の運営に参加し、地域と一体となった大会運営が行われている。

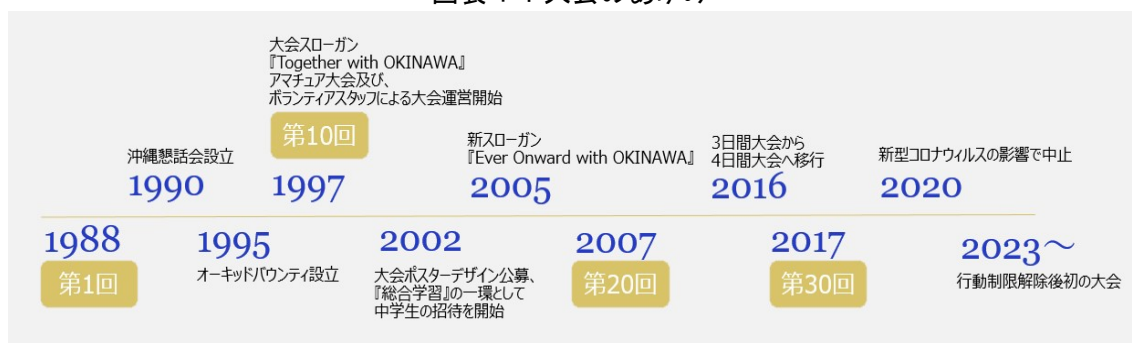
2002年の第15回大会からは沖縄県に在住・通学している高校生以下の応募に限定した「大会ポスターデザインの公募」がスタートした。また総合学習の一環として地元中学生をトーナメントへの招待も開始された。学生達は、観戦前にゴルフについて学んだのち、試合当日にプロゴルファーの勝負の世界を間近にみることができるとともに、大会運営のために働く人々の様子も見学するため、ゴルフを起点に、様々なことを学び感じられる場となっている。

2016年には、これまでの3日間から4日間大会へと移行されたほか、賞金総額も1億2000万円へと増額されるなど規模を拡大しながら、その後も順調に定期開催された。

しかし2020年、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により初めて大会が中止された。2021年～22年のコロナ禍においては、行動制限があるなか、入場数や見学する場所を制限するなど工夫しながら開催が継続された。2023年には4年ぶりに入場制限が解除されて以降、コロナ禍以前と同様に、県内外からの多くのゲストやギャラリーでにぎわう状況である。

このように当大会は、沖縄と本土をつなぐ架け橋の役割と同時に、地元アマチュアゴルファーへの機会提供、ゴルフ文化の定着支援、イベント創出機会を提供し続けており、2005年に掲げられたスローガン"Ever Onward with OKINAWA"「沖縄とともに限りなき前進」のとおり、様々な分野で沖縄の発展に寄与してきたことがわかる。

図表 1：大会のあゆみ



(出所) ダイキン工業株式会社 HP よりりゅうぎん総研作成

(2) イベントスケジュール

ダイキンオーキッドは例年3月1、2週目に開催される4日間のゴルフトーナメントであるが、その前後に様々な関連イベントが開催され、それらを通じて関係人口を増やしている。

まず本大会の約1カ月前に、ダイキンオーキッドレディースアマチュアゴルフ選手権大会が開催される。沖縄県在住もしくは沖縄県出身のアマチュアプレーヤー及び主催者が推薦するプレーヤー240名程度が、初日の予選へ挑み、30名が2日目の最終選考会へと進む。最終選考会の上位4名が本大会への出場権を獲得するものである。

本大会の前々日には、那覇市内ホテルで盛大な前夜祭が開催される。県内外から400人を超える経済人や関係者、グリーン上とは趣の異なる華やかな衣装をまとったプロアマ戦に出場する選手たち45名が招待され、和やかに交流が行われる。会場では沖縄の歌と踊りなどが披露されゲストがもてなされるほか、アマチュア選手の紹介やバウンティの贈呈式が執り行われ、沖縄文化や県内の課題解決に取り組む様々な活動が紹介される場にもなっている。

その後、大会前日には大会と同じ琉球ゴルフ倶楽部で、県内外の有力な経済人とプロ選手が組んでラウンドを行うプロアマ大会が開催される。45組、180名（プロ45名、アマチュア135名）の大きな大会である。

本大会は4日間の開催となり、プレーヤー108名（プロ104名、アマチュア4名）が2日間の予選トーナメントを戦う。そのうち上位50位タイまでが決勝トーナメントへ進み、大会が執り行われる。プロアマ大会、本大会ともに、報道陣や運営スタッフを含め大会開催に関わる人口は相当数であることが推測される。

そのほか公式のイベントではないものの、大会期間前後に1,000人規模の招待客やそのゲスト、家族などが、大会とは異なる近隣のゴルフコースを利用しゴルフを楽しむラウンドツアーや観光ツアーなども用意されており、県内ゴルフツーリズム推進の一助にもなっている。

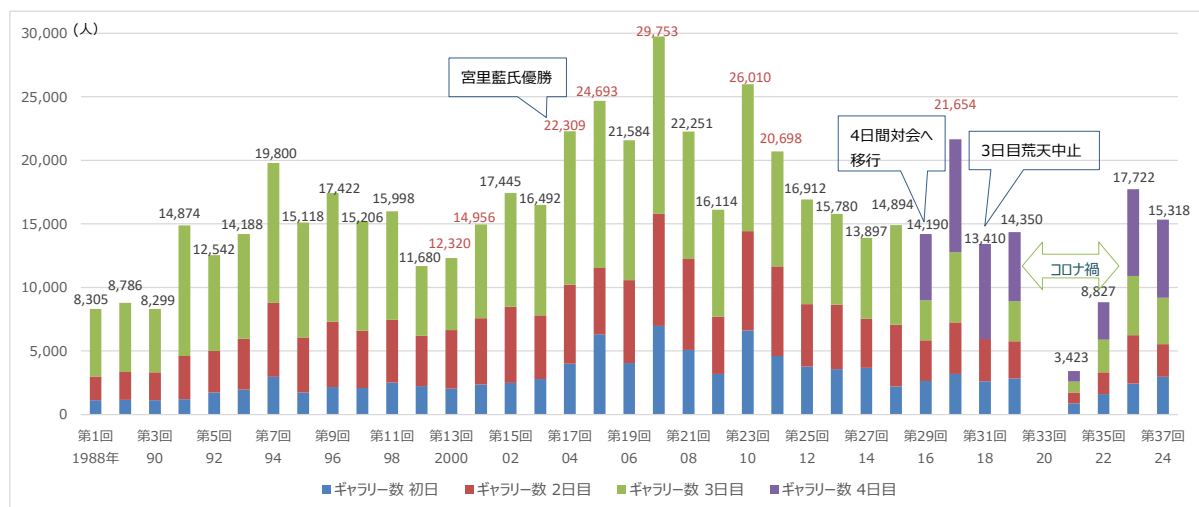
(3) ギャラリー数の推移

続いてギャラリー数の推移を確認する（図表2）。ギャラリー数は、1988年の第1回大会から90年までは8,000人台であったが、91年大会に初めて1万人を超え、その後も規模を拡大しながら安定して推移した。

2000年に入り、第13回大会に宮里藍選手が地元出身のアマチュア枠で初出場し、人気を博したことで、ギャラリー数が12,320人となり前年より増加した。同選手が優勝を果たした2004年の第17回大会では、ギャラリー数が22,309人と初めて2万人を超えた。地元出身の勇姿の証人となるべく、最終日には1万2千人余りのギャラリー数が確認された。図表2において入場者数を赤字で示した回は、宮里選手が出場した回であり、同選手の人気の程がみてとれる。

その後も数多くのスター選手が誕生したことで女子プロゴルフの隆盛が続き、当大会のギャラリー数も安定して推移していたが、2020年に新型コロナウイルスの影響を受け、初めて大会が中止された。コロナ禍の2021年は各日上限1,000名、22年は各日上限3,000名と入場制限しながら大会が継続された。2023年は行動制限の解除を受け、入場にも制限を設けずに開催したことで、ギャラリー数は前年比で倍増した。直近の2024年は悪天候の日もあったものの、15,318人の入場が確認された。

図表2：ギャラリー数の推移（延べ人数）



（出所）ダイキンオーキッド事務局データよりりゅうぎん総研作成

(4) オーキッドバウンティによる社会貢献

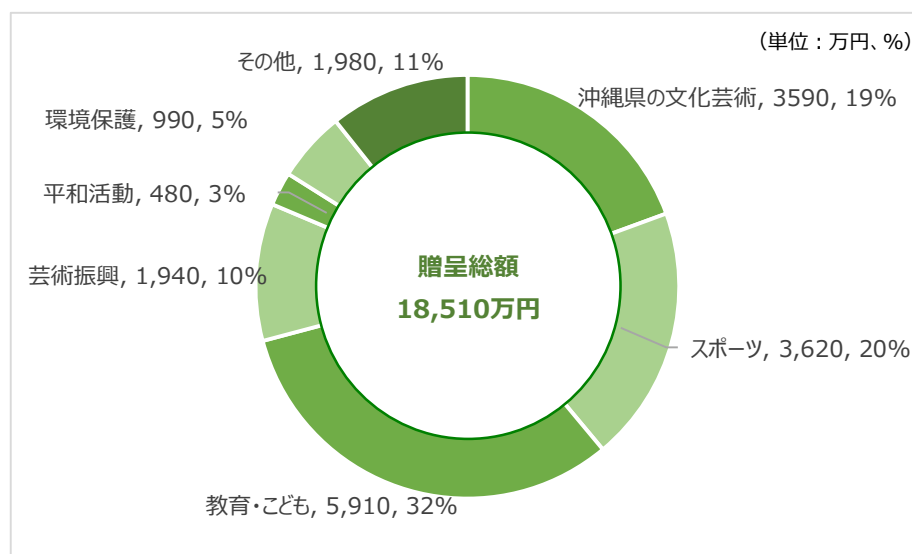
前述のとおり、本大会開催前にはプロアマ大会が開催され、その参加者からの浄財と両主催者の寄付金等を源とする基金「オーキッドバウンティ」において、県内の芸術・文化・スポーツ・教育等の振興を目的としている活動に対し支援金を贈呈している。同バウンティは 1995 年（第 8 回大会）に設立され、現在まで、主に県内の若年層に対する支援として、のべ 277 件の個人や団体に対し、総額 1 億 8,510 万円にのぼる贈呈が行われている。

これまでの贈呈先を分類すると、教育・子ども支援（32%）、スポーツ支援（20%）、沖縄県の文化芸術支援（19%）、芸術振興（10%）、環境保護（5%）平和活動（3%）となっている（図表 3）。

2024 年においては、沖縄の水辺の自然環境保全と環境意識向上を目指す特定非営利法人沖縄環境クラブや、パリオリンピック新種目であるブレイキンの有力選手である津波古梨心氏、平和の尊さを伝え続けるひめゆり平和記念資料館など 11 の個人・団体が贈呈の対象となった。

長きに亘り、同バウンティが県内で活動する人々の経済的サポートかつ精神的な励ましとなっていると同時に、ゴルフトーナメント開催をきっかけに、企業や団体が社会貢献をする機会がつけられ、県内の教育・文化支援を通じた社会課題の解決につながるソーシャルグッド⁴が形成されていることは称賛に値する。今後も多くの企業等から同バウンティへの理解が広がり、更に多くの活動の支援が進むことが期待される。

図表 3：オーキッドバウンティ贈呈先（1995 年～2024 年）



(出所) ダイキンオーキッド事務局データよりりゅうぎん総研にて分類・作成

⁴ 社会 (Social) に対して良い (Good) インパクトを与える活動・サービス・製品などの総称
(<https://www.asahi.com/sdgs/article/15005481>)

3. ダイキンオーキッドの経済波及効果

（産業連関表について）

産業連関表とは、一定期間（通常１年間）における、ある特定の地域で行われた財やサービスの経常的な取引（生産・販売の実態）を行列形式で表にまとめたものである。

各産業は、他の産業から原材料や燃料などを購入し、これを加工して別の財・サービスを生産し、さらにそれを別の産業に対して販売する。購入した産業は、それらを原材料等としてまた別の財・サービスを生産する。産業連関表は、このような財・サービスの「購入→生産→販売」という産業相互間の連鎖的なつながりを一覧表にしたものである⁵。

本調査では、最も新しい 2015 年（平成 27 年）沖縄県産業連関表を用いて経済効果分析を行う。なお、沖縄県が作成した 14 部門表には、同トーナメント開催による需要増加が見込まれる「宿泊業」や「飲食サービス業」等がないため、公表用基本分類表（行 458 部門、列 367 部門）より同部門を抽出し、汎用的に活用できるよう 24 部門表を作成した（図表 4）。

図表 4 産業連関表の組み換え

14部門表		24部門表	
部門名		部門名	
1	農林水産業	1	農林水産業
2	鉱業	2	製造業
3	製造業	3	建設業
4	建設業	4	電気・ガス・水道
5	電気・ガス・水道	5	卸売業
6	商業	6	小売業
7	金融・保険	7	金融・保険業
8	不動産	8	不動産業
9	運輸・郵便	9	運輸・倉庫業
10	情報通信	10	旅行・その他の旅行附帯サービス
11	公務	11	情報・通信・郵便業
12	医療・保健・社会保障・介護	12	公務
13	サービス	13	教育・研究
14	その他	14	医療・福祉
		15	会員制企業団体
		16	対家計民間非営利団
		17	貸自動車業
		18	物品賃貸業（除く貸自動車）
		19	対事業所サービス
		20	宿泊業
		21	飲食サービス業
		22	対個人サービス
		23	事務用品
		24	分類不明

⁵ 総務省 HP「産業連関表とは」https://www.soumu.go.jp/toukei_toukatsu/data/io/t_gaiyou.htm

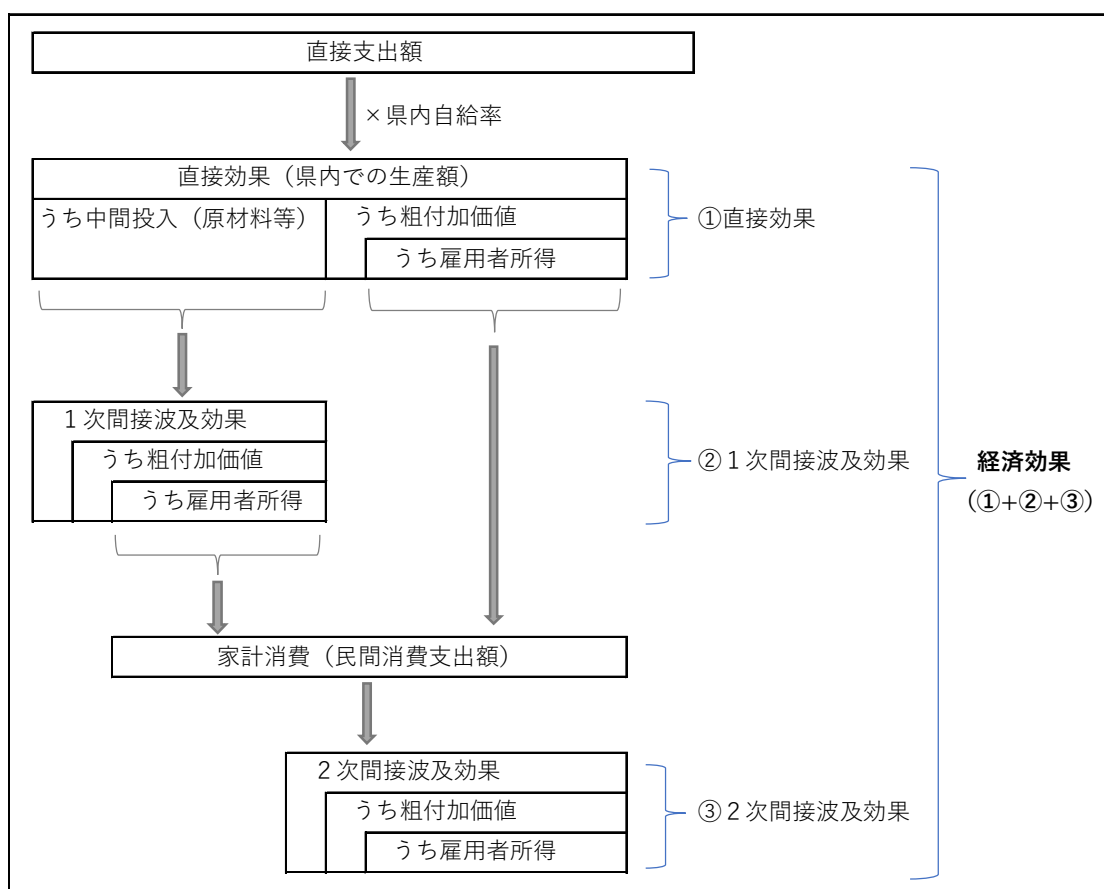
（経済効果算出の手順）

経済波及効果算出の流れを図表5に示した。分析にあたり、前提条件となる同トーナメント開催によって新たに発生した需要である直接支出額を求め、これに自給率を乗じたものが「直接効果」（域内生産額）となる。直接効果とは、各産業における事業活動のうち、県内で生じた財やサービスに対する需要のことで、県内産業に新たに生じた生産増加分を指す。自給率を乗じるのは、需要のすべてが県内で生産された財やサービスに対して発生するわけではなく、域外（県外・海外）からの移輸入により賄われた分も含まれており、その域外生産分を除くためである。

次に、産業連関表を用いて間接波及効果を求める。間接波及効果は「1次間接波及効果」（直接効果に要した原材料を通して他の産業の生産を誘発する効果）、「2次間接波及効果」（直接効果、1次間接波及効果によって誘発された雇用者所得が家計消費を通して各産業の生産を誘発する効果）を足し合わせたものである。

これらの直接効果、1次間接波及効果、2次間接波及効果の合計が「経済効果（生産誘発額）」となる。また、経済効果のうち雇用者に支払われた賃金である雇用者所得や企業の利益である営業余剰などが「粗付加価値額」となる。

図表5 経済波及効果の流れ



（出所）リゅうぎん総合研究所

(1) トーナメント参加者・観客数

第37回ダイキンオーキッドの参加人数は、選手・関係者は合計で約2,000人となり、報道関係者や解説者は約100人となった。また、大会期間中の観客数は、延べ1万5,318人となった。延べ観客数のうち、県外からの観客数は約6,127人と推計された。悪天候の日があったものの、県出身選手や人気選手の参加などもあり、連日多くの観客が会場を訪れ、賑わいがみられた。

図表6 参加者・観客数（単位：人）

選 手 ・ 関 係 者	2,000
報 道 関 係 者	100
観 客 （ 延 べ ）	15,318
うち県内客	9,191
うち県外客	6,127

（出所）ダイキンオーキッド事務局データより

（注）1. 観客の県内外比率はりゅうぎん総合研究による推計

(2) ダイキンオーキッドの関連支出額（直接支出額）

ダイキンオーキッド開催にあたっては、選手や関係者に加え、県外から多くの観客が沖縄県を訪れ、県内で宿泊や飲食、娯楽レジャー、土産品購入などに支出するほか、多くの県民が会場へ出かけ、飲食や土産品・グッズ等を購入する。また、主催者による大会運営のための支出や関連経費等の支出があり、これらを合計したものが直接支出額となる。

この直接支出額を推計すると、総額で18億4,900万円となった（図表7）。内訳をみると、宿泊費が4億100万円、飲食費が2億2,300万円、土産品・グッズ購入が1億9,500万円、交通費が1億6,900万円などとなった。

図表7 ダイキンオーキッド関連支出（直接支出額）

支 出 項 目	支 出 額 (百万円)
宿 泊 費	401
飲 食 費	223
土 産 品 ・ グ ュ ヅ 購 入 費	195
交 通 費	169
娯 楽 ・ レ ジ ャ ー 費	109
そ の 他	753
合 計	1,849

（出所）りゅうぎん総合研究所

(3) 沖縄県内におけるダイキンオーキッドの経済効果

まず、県内の産業全体の自給率は100%ではないため、(1)で求めた直接支出額18億4,900万円に自給率を掛けると県内供給分である直接効果15億5,900万円が求められる(図表8)。

次に、宿泊費や飲食費、土産品・グッズ購入費などの需要が発生すると、当該産業だけでなく、こうした産業に原材料やサービス等を提供している産業の売上増加へと波及していく。これが1次間接効果であり、5億4,400万円となる。さらに、直接効果と1次間接効果で生じた各産業における雇用者の所得増加は、家計(個人)の消費支出を増加させ、関連する各産業の生産を誘発していく。これが2次間接効果であり、3億3,400万円となる。直接効果、1次間接効果、2次間接効果の合計が24億3,700万円となり、これがダイキンオーキッド開催による経済効果である。直接支出額に対し、1.3倍の経済効果をもたらすこととなる。

また、経済効果のうち、粗付加価値額が13億6,500万円となり、うち雇用者所得が6億2,600万円と推計された。

図表8 ダイキンオーキッドによる経済効果

	経済効果額 (生産誘発額)	粗付加価値誘発額	
			雇用者所得誘発額
直 接 効 果	1,559	848	408
1 次 間 接 効 果	544	308	136
2 次 間 接 効 果	334	209	83
総 合 効 果（経済効果）	2,437	1,365	626
直 接 支 出 額	1,849	－	
波 及 効 果	1.32 倍（総合効果 / 直接支出額）		

(出所) りゅうぎん総合研究所

(注) 1. 直接効果は、直接支出に県内自給率を乗じたもの(域外生産分を除くため)。

2. 1次間接効果は、原材料を他の産業から購入することによって起こる波及効果。

3. 2次間接効果は、直接効果、1次間接効果によって誘発された雇用者所得が家計消費を通して再び生産を誘発する効果。

4. 生産誘発額は、需要(直接支出)の増加により誘発された各部門の生産額の合計。

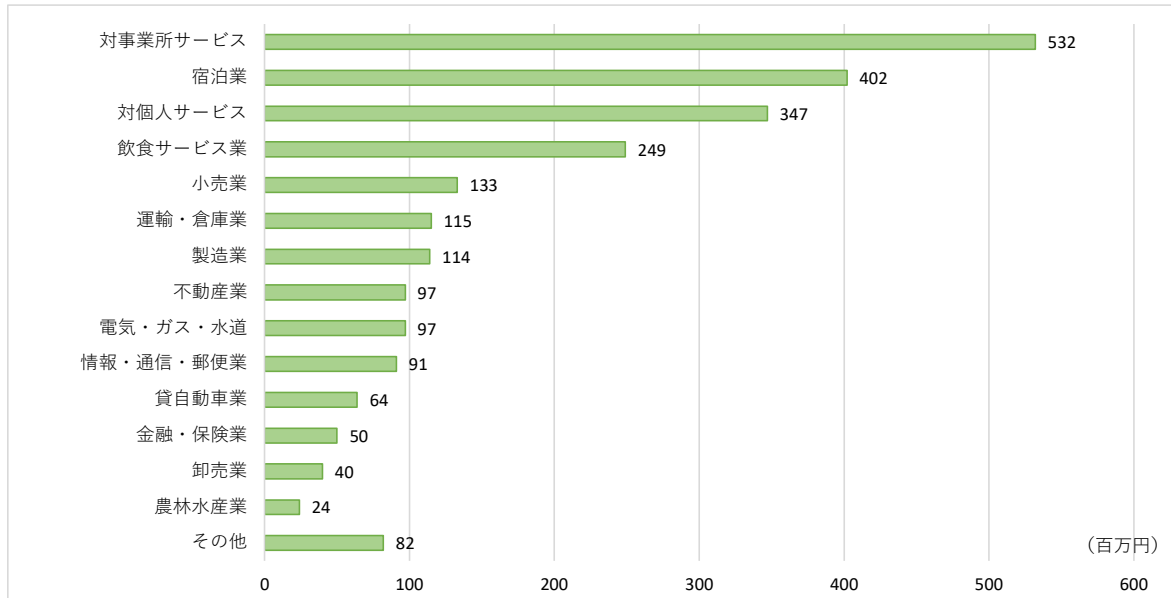
5. 粗付加価値は、誘発された生産額の中に占める雇用者所得や営業余剰など。

6. 端数処理により合計は合わないことがある。

(4) 産業別の経済効果

経済効果である 24 億 3,700 万円を産業別にみると、ゴルフ場使用料や広告宣伝費等の大会運営費が含まれる「対事業所サービス業」が 5 億 3,200 万円と最も大きく、次いで「宿泊業」が 4 億 200 万円、「対個人サービス業」が 3 億 4,700 万円、「飲食サービス業（飲食店など）」が 2 億 4,900 万円などとなった（図表 9）。

図表 9 ダイキンオーキッドによる産業別経済効果



(出所) りゅうぎん総合研究所

4. おわりに

～Ever Onward with OKINAWA ダイキンオーキッドの経済効果の拡大に向けた展望～

前章のとおり、第 37 回大会の経済効果は 24 億 3,700 万円と算出された。冬場の観光の閑散期対策として 1 月にサッカーキャンプ、2 月に野球キャンプなどスポーツツーリズムが県内各地で進められており、大きな経済効果をもたらしているが、ダイキンオーキッドについても 4 日間の短い開催期間であるものの、予想を上回る効果があることがわかった。

長期間に亘り継続実施されていることもあり、大会自体の知名度並びに人気が高く、県外から多くの観客を迎え入れること、またゴルフ客の消費単価の高さも奏功した結果と考えられる。加えて同大会は、プロの試合を観戦する『観る』スポーツであるだけでなく、試合の前後に観客として来沖した人々が近隣のコースでラウンドを楽しむなど、『する』スポーツにも繋がっていることにより、地元のゴルフ場含め近隣地域の活況をもたらし、大会開催期間中のみならず、前後に行われる消費活動により生みだされる県経済への経済的効果は、更に拡大していると推測される。

イベント開催による県内への経済効果という側面からすると、観光消費額の大きい県外客の誘客並びに来場者の消費行動を促すことは非常に重要である。

実際にダイキンオーキッドの会場出入口には、ギャラリープラザとして、観客の物販や飲食用に巨大なテントが設置され、開催地である南城市の人気レストラン『カフェくるくま』の outlet や、黒糖や南城アグーを使った商品など地元の特産品が販売され、地場産業を PR する工夫がなされていた。また会場である琉球ゴルフ倶楽部限定グッズや、沖縄生まれのゴルフアパレルブランド『OKINAWA GOLF CLUB』の展示販売が行われ、来場者が県産品を身に着けて会場に色を添え、イベントムードを盛り上げている様子がみられた(写真)。

このような形で、地元の飲食店や土産品店、並びにグッズ販売店が充実していることで、スポーツイベントそのものが彩られ、更なる集客効果が期待される。県内で開催されるプロ野球春季キャンプなどの他のスポーツイベントにおいても、同様の仕組みづくりをすることが望まれよう。

【写真】買い物客で賑わうギャラリープラザの様子



(出所)筆者撮影

今後、ダイキンオーキッド開催による経済効果の更なる拡大を目指すにあたっては、以下2点の検討が可能である。1点目は会場におけるアンケート調査の実施である。年齢や性別、出身地等の来場者の属性や、来場目的や課題等の詳細な情報を集めることで、変化の大きい時代において、来場者の嗜好を把握することが可能になるほか、新たな客層の獲得に向けたマーケティングにも有効であろう。

2点目は関連イベント等の一部有償化である。例えば、‘推し’の選手のスタートを間近で見られる特別席の一部有償販売や、現在は学生に社会貢献の一環として提供されているトーナメント運営の裏側の案内を、一般客に向けて有償の限定ツアーとして販売するなど、ヒト消費やコト消費をターゲットにした付加価値を商品化することが考えられる。またこのような取り組みで得られた収益についても、オーキッドバウンティ等を通じて、県内の意義深い取り組みの支援につないでいくことも可能であろう。

本レポートにおいては、ダイキンオーキッドのこれまでのあゆみを振り返り、大会開催によりもたらされる経済効果を算出した。経済効果については、各年の来場者数等により異なるものの、37年間継続開催されており、毎年繰り返し一定の効果が生み出され続けている点は、特筆すべきであろう。また、経済効果の数字には表れないものの、オーキッドバウンティのみな

らず、ポスターコンテストやアマチュア大会などを通じて、沖縄県内の若年層の育成を支援し続けていることは、沖縄県民に広く知らしめたい社会的効果である。加えて沖縄の観光業界の課題とされる観光需要の年間平準化や消費額の向上についても、定着イベントとして貢献度が高く、沖縄県において同大会の存在意義は大きい。

沖縄の発展に寄与し歴史を紡いできたダイキンオーキッドレディーストーナメントが、これからも県民一同に愛されながら発展し、ともに沖縄県の未来をつくりあげていくことを希望する。

取締役調査研究部長 宮国 英理子
研究員 米須 唯

(参考) 第37回ダイキンオーキッドによる経済効果 24部門表

単位：百万円	経済効果計				粗付加 価値額	雇用者 所得
		直接効果	1次間接 波及効果	2次間接 波及効果		
農林水産業	24	0	19	5	9	6
製造業	114	23	66	25	39	16
建設業	4	0	3	1	2	1
電気・ガス・水道	97	0	77	20	52	16
卸売業	40	7	24	9	37	22
小売業	133	69	20	44	72	40
金融・保険業	50	0	26	24	38	18
不動産業	97	0	18	79	79	6
運輸・倉庫業	115	79	23	13	60	31
旅行・その他旅行附帯サービス	23	1	21	1	10	2
情報・通信・郵便業	91	0	69	22	52	24
公務	2	0	0	2	1	1
教育・研究	8	0	2	6	7	6
医療・福祉	18	0	0	18	11	9
会員制企業団体	7	0	6	1	4	3
対家計民間非営利団	3	0	0	3	1	1
貸自動車業	64	39	24	1	39	7
物品賃貸業（除く貸自動車）	12	0	11	1	8	1
対事業所サービス	532	404	108	20	334	186
宿泊業	402	401	0	1	190	69
飲食サービス業	249	223	8	18	104	68
対個人サービス	347	313	15	19	216	93
事務用品	5	0	4	1	0	0
分類不明	0	0	0	0	0	0
合 計	2,437	1,559	544	334	1,365	626

(出所) リゅうぎん総合研究所

(補足) 経済効果を求める式 (投入モデル) は以下の通りである

$$\Delta X_1 = \{ I - (I - M) A \}^{-1} (I - M) \Delta F$$

$$\Delta X_2 = \{ I - (I - M) A \}^{-1} (I - M) c k w \Delta X_1$$

$$\Delta X = \Delta X_1 + \Delta X_2$$

ΔX_1 : 生産誘発額 (直接効果 + 1 次間接波及効果)

ΔX_2 : 生産誘発額 (2 次間接波及効果)

ΔX : 経済波及効果 (直接効果 + 1 次間接波及効果 + 2 次間接波及効果)

I : 単位行列

A : 投入行列係数

M : 移輸入係数

ΔF : 最終需要増加額 (生産額)

c : 民間消費支出構成比

k : 消費転換係数

w : 雇用者所得率